



▲「美しい川に」と、下末松の住民が注意を促す立て札を設置

川は...

豊富な流れを



▼発泡スチロールや木きれなど、たくさんのごみ(横堀川)



▲川底には、大量の獣骨が散乱

▼捨てられた頭がい骨

拾う身で

考えて



小松修三さん
(下末松公民館長)

だれが捨てるのかわからないが、とても困ったことです。

三日の横堀川清掃には、多くの人に参加し、特に空き缶の多さに驚いた。捨てる人は、迷惑する地元のこともっと考えるべきだ。また、投げ捨てるをしないようにと、このほど二カ所に立て札を建て呼びかけているが、少しでもその効果が上がってほしい。

今後は、地区だよりなどを通して、地区の美化意識を高めていくことも考えている。

立て札で 呼びかけ (下末松)

人は、川をゴミ捨て場とと思っているのでしょうか。とんでもないことです。南国署では、悪質な不法投棄として調査を始めました。

近所の人の話によると「ここ二、三年前から、川干のとき見かけるようになった。この付近の人は捨てるような人はいないし、あんなに大量ということは、だれかが車で運んで捨てているのでしょうか。ひどいことです」と、あまりのモラルのなさに驚いています。

下末松の横堀川も、ごみがいっぱい。よどみには、ビンや木片、発泡スチロールの箱など、うんざりするほどたまっています。

三月三日、下末松の地区民五十人が集まり、長岡小から西へ約五百メートルの間を清掃しました。集まったごみは、ごみ袋で百袋と、予想以上の多さにびっくり。木片、トタンなどの大きなごみは、二時半もありました。

地区の話し合いで、ごみの投げ捨てを少しでも減らそうと、へんろ石と長岡東部公民館の二カ所に立て札を設置。広く河川の美化を呼びかけています。

ごみ捨て場?

舟入川、横堀川で
一斉清掃

取り戻そう

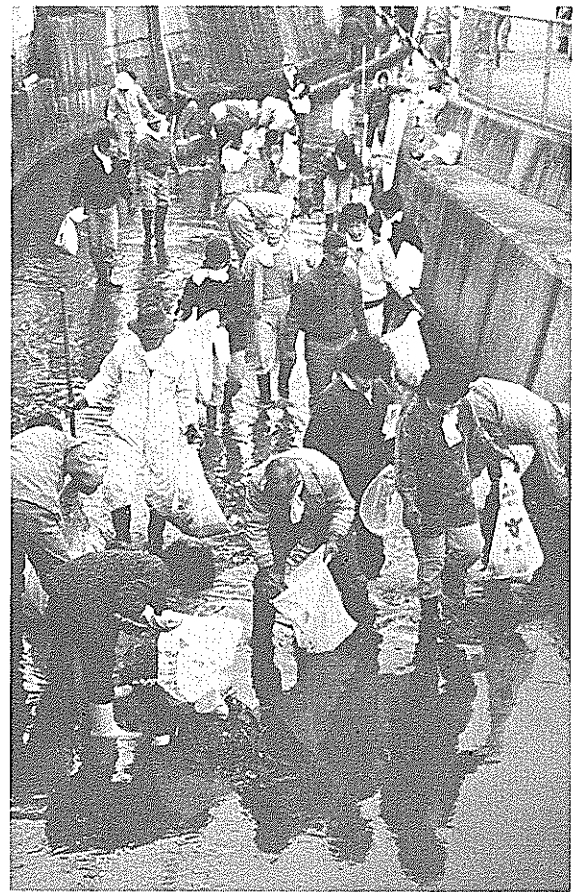
○3月3日○



▲捨てるのは簡単でも、清掃には大変な労力と経費が必要です



▼捨てられた缶やビンの多さにびっくり



▲地域住民70人が協力して、早朝から清掃作業に動んだ

舟入川を 一斉清掃

ごみの不法投棄が絶えない舟入川で三月三日、流域住民が協力し一斉清掃を行いました。

昔は、水もきれいで、子供たちが泳いだり、洗濯をしたりと、地域の人々の生活に密着していた舟入川は、今は空き缶、ビニール、発泡スチロールの容器が散乱する「ごみの川」となっています。川に取り戻そうと、今回の一斉清掃となったもの。

場所は、後免から西へ小笹までの区間で、特にごみの量の多い篠原地区は業者に依頼して清掃してもらおうことになっています。

上流の東崎西部地区、下流の小笹地区では、朝早くから約七十人の住民が参加。それぞれごみの多さに驚きながら、泥だらけになって清掃に汗を流しました。

獣骨が散乱

一方、上野田から下野田にかけての舟入川で、大量の獣骨が発見されました。

豚や鶏とみられる骨が、川の両側約一キロにわたって散乱。捨てる